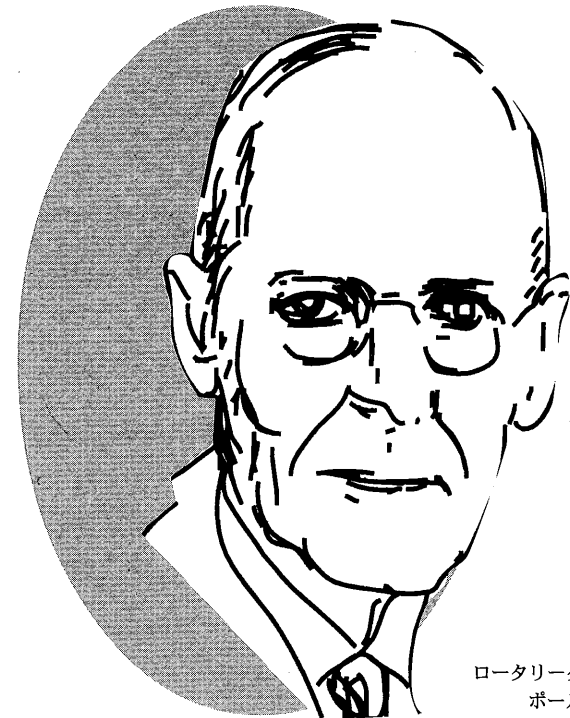
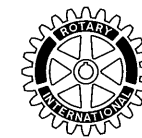


ロータリーのあらし



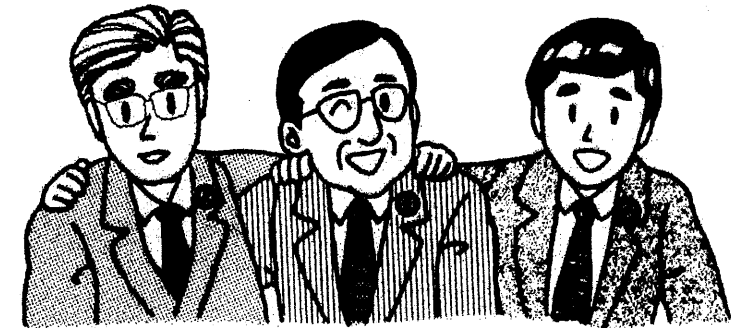
ロータリークラブ生みの親
ポールハリス



2001～2002年度
国際ロータリー第2780地区
ロータリー情報委員会



ロータリアンはフツウの人？



子供の頃、街角で出会った素敵な紳士。胸には歯車のバッジをつけて颯爽と歩く。「あーっ！ロータリーの人だ。あの方は立派な方にちがいない。お仕事も立派、社会的な貢献もされ地位もある慈愛の心豊かな方だ。それにお金持ちかもしれない。ロータリーの人には特別な階級の人にきまっているのさ。」などと考えていました。はたしてそうなのでしょうか。

確かにその様な方々も沢山居られますが、総体的にはごくフツウの人達で、特権階級の集まりではありません。

☆ロータリアンの資格

ロータリークラブの会員には、会社の経営者、支店長さん、お医者さん、弁護士さん、お坊さんなど社会の第一線で活躍されているあらゆる職業の方で、倫理活動に興味をお持ちの方ならどなたにも入会資格があります。

ただし、その地域における職業や団体を代表して会員になり、理想とする奉仕の道をひろめていただきます。

肩書きや地位には全く関係なく、さびしがり屋で友達が欲しい人、ご自分の職業を愛し努力している方、社会の人々のために、ささやかでも何か役立ちたいという心をお持ちの方、知性と友愛の精神を尊重し実践しようと努力される人であれば、会員として最も適任者といえましょう。

ロータリーのあらし

<目次>

- *ロータリアンはフツウの人？ …… 1
- *ロータリークラブの誕生 …… 2
- *ロータリークラブでの親睦と奉仕 …… 3
- *ロータリークラブの例会場では …… 4
- *ロータリークラブの運営 …… 5
- *ロータリーと新世代の育成 …… 6
- *ロータリーのよろこび …… 7
- *編集後記 …… 8

☆ロータリアンライフ

そもそもロータリークラブは孤独な人達の「友情と親睦の渴望」から生まれました。その後、親睦を通じて生まれたエネルギーをもって「他人に対する思いやりの心」を奉仕の規範とし、「他人のために尽くそう」と努力している団体なのです。

ロータリアンは自己の日常の家庭生活においても、職業生活や社会生活においても、また、国際的な問題に直面した場合にも、

ロータリーの四つのテスト

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなの為になるかどうか… と

自分の心に質して行動しています。《ハーバート・J・ティラーの提唱》

※ 1954～1955年度RI会長

ロータリークラブの誕生

開拓時代の米国。シカゴ市の青年弁護士ポール・ハリスは一生懸命に働いて事業は成功していたのですが、彼の孤独感は強まる一方でした。「友人が欲しい。お互いに心を許しあい、語り合える友を選び親睦の団体を作れないものだろうか」と考えました。

1905年3名の仲間を集めて会合を持ったのがロータリーの始まりでした。例会場は各々の家庭や職場を転々と持ち回りしていたことから、会合の名称は「ロータリー」と名付けられました。

日本のロータリーは1920年創立、1921年に認証された東京ロータリークラブが最初でした。

現在では、162の国家および地域に30,149クラブ、会員数1,188,492人。日本には2,308クラブ、会員数116,801人。横浜市・川崎市を除く、神奈川県全体を2780地区と呼び69クラブ、3,000余名（うち女性68名）の会員がおります。

ロータリークラブでの親睦と奉仕

☆はじめに「親睦」あり

ロータリークラブは多くの友人を作り、会員相互の親睦を第一義とした団体です。「異業種交流の場」でもあります。心の許せる友と語り合い、学びあい、信頼を深め、職業に有益な情報を交換することができます。

しかも、「同じクラブ内には同業者はいない」というユニークな一業種一会員制が、昨今、多少ゆるやかにはなっていますが原則として守られています。会員同士が商売上の直接の利害関係に係わりなく、自由闊達に意見を交わすことが出来るようにとの主旨から生まれた制度です。

☆「奉仕」のめばえ

善意あふれる会員相互の親睦と信頼は高揚し、親睦活動を通して生まれたエネルギーは世のため、人のために奉仕する心を芽生えさせ、奉仕の心の実践へと広がります。

ロータリークラブは数多くの奉仕活動を経験しておりますが、単なる寄付団体ではありません。

「交差点を渡ろうとするご老人がいたら、杖や物を用意するより、そっとそばに寄って静かに手を差しのべ、共に体温を分かちあえるよう、一緒に交差点を渡ってあげる」こんな思いやりの心が本質です。

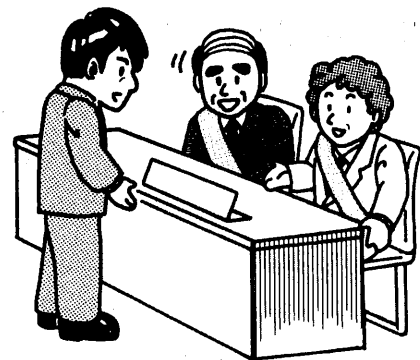
☆私は奉仕する 職場で…、社会で…、世界で…、

ロータリークラブの奉仕活動は原則として会員一人一人を単位とし、自らの意志で参加していくことが基本となっています。また、一方では、クラブ単位、あるいは多くのロータリークラブが協同で行う奉仕活動も盛んに行われています。

ロータリアンの奉仕活動は各人の職業・家庭生活・社会生活を通じて実践されます。

すなわち、職業上では社員や関係先に満足が与えられるようにと心を配ります。また、地域社会では弱者への手助け、国際社会では飢餓の救済や疫病の撲滅、奨学生の交換や派遣など具体的な成果は数多くみられます。

ロータリークラブの例会場では...



ロータリークラブの例会は、一週に一度決められた会場で、必ず『例会』として1時間開催されます。

会員はこの例会に出席する権利と義務があります。
何らかの理由で所属するクラブの例会に欠席した場合は、前後2週間の間に他のクラブに出席して補填することができます。
近隣のクラブはもとより、国内、海外、どのクラブにも出席することが可能です。

例会の前半は共に食事をいただきながら、クラブの連絡事項や報告を聞きます。
例会の後半は会員や多彩なゲストスピーカーによる卓話の時間で、珍しい事柄、新しい情報に耳を傾ける楽しい時間です。
終了後にはお茶を飲みながら会員同士の語らいの場もあります。

例会は時には夕方の懇親パーティ、旅行会、観劇会、家族親睦会など多岐に亘るプログラムが企画されたり同好会も盛んです。
趣味（例えばゴルフ、旅行、釣りやグルメの会、アマチュア無線）や職業を通じて世界の仲間との交流も楽しめます。

また、会員はロータリーの中に特定の政党、宗派など主義主張を持ち込むことは一切厳禁されています。

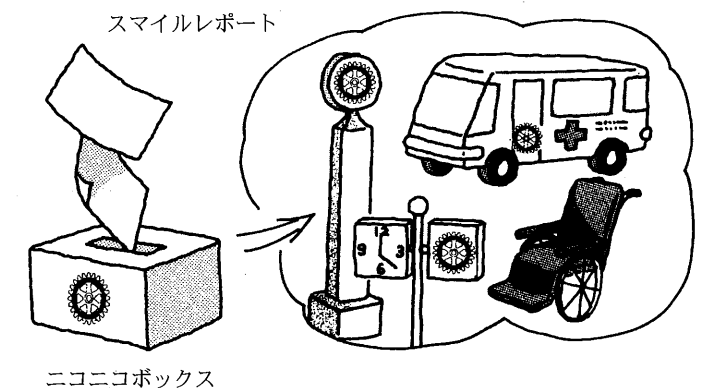
ロータリークラブの運営

☆会員はすべて平等に。費用は全員均等負担。

ロータリークラブの運営は会員全員で行います。「一人の英雄も一人の非協力者もない」ことが最も好ましいとされます。
会員はすべて平等の立場で同じ権利と義務を有しています。
ロータリークラブの役員はすべて1年の任期で交代します。
例会費、事務局経費、運営費など運営に係わる一切の経費は会員全員で均等に負担します。どこからも助成金のような資金はいただいていません。拠出していただいた会費の大半は食事代などご自分の為の経費として使われます。

☆ニコニコボックス

「〇〇さん昨日はご馳走になりました。」
「孫ができました。ジジイです。」
こんなメッセージ（スマイルレポート）に感謝の気持ちに見合う金額を添えてニコニコ箱の中へ。ご自身の結婚記念日や誕生日、また、何かの記念日などに楽しいことがあったり、嬉しかったことを会員の仲間に聞いて貰いたい！そんなやりとりが会員間の相互理解に繋がります。
こうして集まった浄財は奉仕活動に使われます。



ロータリーと新世代の育成

ポリオ撲滅プログラム：1985年からWHOやユニセフと協力してポリオ・プラス・プログラムを実施し、2000年までにポリオ発症者をゼロにし、ロータリー創立100周年の2005年にポリオ撲滅宣言を出すべく全力を傾注しています。

ロータリー奨学制度：海外留学生を対象とした世界的規模の「ロータリー財団」、来日留学生を対象とした日本独自の「米山記念奨学会」は、民間としては最大規模の奨学制度です。卒業生には国家元首、首長、各界の著名人や実業家を数多く輩出しています。日本人では元国連の緒方貞子難民高等弁務官もそのお一人です。

これらの基金は会員一人一人の善意の浄財により運営されてきました。50年以上の長い期間を経て確立された素晴らしい実績です。

国際問題研究ロータリー・センター：世界平和を維持し、紛争解決への一翼をになう将来のリーダーを養成するために、世界中から70人をロータリーが提携した評価の高い8大学、大学院へ派遣。

国際青少年交換：海外諸国のロータリークラブとの間で高校生の1年間の派遣・受入れをしています。(当地区では米、加、豪、ロシア、韓国、ブラジル、台湾、ニュージーランドと交換)

インターアクト・クラブ：14才～18才の青少年に世界的友好精神を基軸とした奉仕と、国際理解に貢献する活動の機会を提供するために、地域や学校単位で結成し、活動している若者を支援育成しています。当地区には現在11のクラブがあります。

ローターアクト・クラブ：18歳から30歳の青年男女が自分の能力を高め、地域社会のニーズに取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人々と、より良い信頼関係を深めるための機会を提供する。地域または大学単位で結成し、当地区には現在7つのクラブがあります。

ロータリーによるこび

多くの友人を作ることが出来ます。
社会を明るくする多くの奉仕活動に参加することが出来ます。
ロータリアンは無報酬であるばかりでなく、一切の経費を負担し、出席の義務まで負い、なにかと奉仕活動に駆り出され…などと考えれば多少のプレッシャーを感じるかもしれませんが、私達の奉仕活動が地域社会の人々の共感を得て奉仕の輪が広がります。この喜びこそが最高の生き甲斐であり誇りであると考えたいものです。



おわかりいただけましたか

最後に、再び「ロータリーとは何か」については、次のように考えては如何でしょうか。

ロータリーは思いやりのある平和な社会を目指しています。

このような社会作りに奉仕するものはロータリアン個人個人です。

ロータリアン個人個人の心の改善、すなわち奉仕の心の涵養は、ロータリークラブの例会や親睦などを通じて培われるものです。

したがって、ロータリーにあっては教師がいません。ロータリアン全員が教師であり、また、全員が生徒です。つまり、ロータリーは自己研鑽の場なのです。

「入りて学び、出でて奉仕せよ」といわれる所以です。

是非一度、例会へおいでください。

お待ちしております。

編集後記

地域の職種や業界の代表者等、有力な会員候補者に対して、ロータリーをやさしく説明できることは、ロータリーの広報に役立つと思います。

このたび、ロータリー情報委員会では、R.Iの規定審議年度に合わせて、1999～2000年度版「ロータリークラブのあらし」をお手本に2001～2002年度版を発行いたしました。

各ロータリアンが、ロータリーの奉仕活動を身近な人達に正しく理解してもらうために、この小冊子を活用されることを念じています。

2001～2002年度

国際ロータリー第2780地区 ロータリー情報委員会

ガバナー 竹内 万也 担当パストガバナー 小沢 一彦

地区幹事 青木 壽男 担当地区副幹事 栗原 俊

地区クラブ奉仕委員長 太田 陽三 (横須賀)

副委員長 久保寺久雄 (藤沢西)

地区ロータリー情報委員長 関戸 一守 (相模原東)

委員 小澤 幸雄 (寒川)

委員 今田 正廣 (鎌倉)

委員 三浦 福好 (綾瀬)

委員 成田 治一 (伊勢原)

委員 関根 昇次 (鎌倉大船)